形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚がん	
	タイプ	医学情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Case-control study of sun exposure and squamous cell carcinoma of the skin	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	SCC-CQ1-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID	9663594	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int J Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	77	
	号		
	ページ	347-353	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	1998	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	English DR	Univ. Western Australia
	その他著者 1	Armstrong BK	New South Wales Cancer Council
	その他著者 2	Kricker A	National Breast Cancer Center
	その他著者 3	Winter MG	Univ. Western Australia
	その他著者 4	Heenan PJ	Univ. Western Australia
	その他著者 5	Randell　PL	Sir Charles Gairdner Hospital
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目	目的	紫外線曝露と皮膚 SCC に関する様々な因子の解析	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	オーストラリア	
	対象者	１３２例の SCC 患者と１０３１例のコントロール（全てオーストラリアで生まれ生活している者）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（　3　）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（　3　）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（　4　）	
	介入（要因曝露）	過去に紫外線曝露を受けた状況	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	皮膚 SCC の発生	1.主要 2.副次 3.その他（　1　）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	主な結果	SCC ができた部位における紫外線曝露歴についてインタビューを行った。SCC の発生と相関がみられた因子は、小児（８－14 歳、OR:5.1）と思春期（15－19 歳、OR:3.8）における紫外線暴露、サンバーン時の水疱形成（OR:2.1）であった。日々の日光曝露のパターンには相関はみられず、サンスクリーンや帽子の使用については一定した結果は得られなかった。	
	結論	SCC の発生には、サンバーン（紫外線に対する皮膚の感受性）が強く関わっている。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅳ　） SCC の発生にサンバーンの程度やそれを受けた年齢が重要であること示した価値ある論文である。

形　式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚がん	
	タイプ	医学情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	光と発がん	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	紫外線予防　SCC-CQ 1-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅵ ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID	1996227134	
	雑誌名	日皮会誌	
	雑誌 ID		
	巻	106	
	号	3	
	ページ	225-238	
	ISSN ナンバー	0021499X	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 1 ）	
	発行年月		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	市橋正光	神戸大学皮膚科
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の6項目	目的	紫外線による皮膚がん発生に関する基礎的なデータや疫学についてのレヴュー
	データソース	不明（専門家の意見）
	研究の選択	同上
	データ抽出	同上
	主な結果	太陽紫外線とオゾン、皮膚がんの疫学調査、動物実験、紫外線発癌に関する分子機構、予防の重要性などについてレビュウーしている
	結論	皮膚がんの疫学調査については信頼できるデータに乏しい。本邦における正確なSCC発生率の調査が必要である。また、乳幼児期における紫外線対策やスキンタイプと関連した紫外線予防についての教育が必要である。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅵ ） 紫外線と皮膚がんとの関係を総括的にレビューしている。概略を知るのによい論文である。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚がん	
	タイプ	医学情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Daily sunscreen application and betacarotene supplementation in prevention of basal-cell and squamous-cell carcinomas of skin: a randmised controlled trial	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	SCC-CQ1-3　WEB版 SCC-CQ1-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅱ ）	
	Pubmed ID	10475183	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Lancet	
	雑誌 ID		
	巻	354	
	号	9180	
	ページ	723-29	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 1 ）	
	発行年月	1999	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Green, A.	Epidemiology and Population Health Unit, Queensland Institute of Medical Research, Brisbane, University of Queensland, Australia. adeleG@qimr.edu.au
	その他著者 1	Williams, G.	
	その他著者 2	Neale, R.	
	その他著者 3	Hart, V.	
	その他著者 4	Leslie, D.	
	その他著者 5	Parsons, P.	
	その他著者 6	Marks, G. C.	
	その他著者 7	Gaffney, P.	
	その他著者 8	Battistutta, D.	
	その他著者 9	Frost, C.	

	その他著者 10	Lang, C. Russell, A.	
一次研究の8項目	目的	βカロチン内服とサンスクリーン剤によるBCCとSCCの予防効果	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	オーストラリア南西クイーンズランド	
	対象者	上記在住者	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別ｾｻﾞ （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別ｾｻﾞ （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別ｾｻﾞ （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	βカロチン内服、サンスクリーン剤の使用	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｺﾑ）	エンドポイント	区分
	1	SCC,BCCの発生率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	サンスクリーン剤とβカロチンについて2 by 2の群を作り4.5年間、SCCの発生率について調査した。サンスクリーン剤使用群は対照群にくらべてSCCの発生率が低かった（RR:0.61）。βカロチンとBCCにおけるサンスクリーン剤の効果はみられなかった。	
	結論	サンスクリーン剤の使用はSCCの発生を減少させる。	
	備考		
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	宇原　久	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ II） オーストラリアのような紫外線の強い地域に住む白人におけるサンスクリーン剤の有益性を証明した貴重なデータである	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚がん	
	タイプ	医学情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Reduction of solar keratoses by regular sunscreen Use	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	SCC-CQ1-4、WEB 版 SCC-CQ1-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　II　）	
	Pubmed ID	8377777	
	医中誌 ID		
	雑誌名	New Eng J Med	
	雑誌 ID		
	巻	329	
	号		
	ページ	1147-51	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2）	
	発行年月	1993	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Thompson, S. C. Jolley, D. Marks, R.	Anti-Cancer Council of Victoria, Carlton, Australia.
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目	目的	サンスクリーン剤使用による日光角化症の予防効果	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	オーストラリア、ビクトリア州、	
	対象者	40歳以上で１～３０個の日光角化症を持っていたオーストラリア人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（　3　）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（　3　）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（　15　）	
	介入（要因曝露）	サンスクリーン剤の使用	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	個体別日光角化症の発生数	1.主要 2.副次 3.その他（　1　）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	主な結果	サンスクリーン剤を毎日使用して７ヶ月間日光角化症の発生を調べた。サンスクリーン剤使用群は基剤のみを使用した群における日光各化症の平均発生個数は、それぞれ1.6個対2.3個であり、RRは0.62であった。また、サンスクリーン剤使用群では病変の自然消失も増加した（OR:1.5）	
	結論	日常的なサンクリーン剤は日光角化症の予防に役立つ。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　II） 観察期間が７ヶ月間と短い。既に日光角化症のある患者について調べたものであり、リスクの高い患者では中年以後にも予防効果があるということを示しているのかもしれない。また、自然消退も多いということはサンスクリーン剤による遮光が紫外線による皮膚の免疫低下も予防しているのかもしれない。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚がん	
	タイプ	医学情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	A randomized controlled trial to assess sunscreen application and beta carotene supplementation in the prevention of solar keratoses	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	SCC-CQ1-5、WEB 版 SCC-CQ1-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1 つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ. 非ランダム化比較試験による Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ II ）	
	Pubmed ID	12707092	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	139	
	号		
	ページ	451-5	
	ISSN ナンバー	0003-987X	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 1 ）	
	発行年月		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Darlington, S.	Comprehensive Cancer Research Center, Population and Clinical Sciences Division, Queensland Institute of Medical Research, PO Royal Brisbane Hospital, Australia.
	その他著者 1	Williams, G.	
	その他著者 2	Neale, R.	
	その他著者 3	Frost, C.	
	その他著者 4	Green, A.	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		
一次研究の 8 項目	目的	サンスクリーン剤による日光角化症の予防効果	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	Australia, Numbour(亜熱帯地域)	
	対象者	上記在住者から無作為に抽出され、皮膚がん検診を受けた者	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 14 ）	
	介入（要因曝露）	サンスクリーンの使用、β カロチンの内服	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	日光角化症の発生	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	日光露出部に毎日サンスクリーン剤を使用した群と任意に外用させた群とを比較した。日光角化症の発生個数はそれぞれ、1.20 対 1.57 で、毎日使用で２４％の減少がみられた。ただし、統計学的な有意差はみとめられなかった。	
	結論	サンスクリーン剤の使用は日光角化症の発生を抑制する。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原　久	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ II） 研究結果に影響を与えうる因子である皮膚色、皮膚がんの既往、これまでの日焼け歴、趣味、喫煙歴などについて群間で差が出ないように試験開始時と終了時に調査されている試験であり、信頼性が高い。	

式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚がん	
	タイプ	医学情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Skin cancer screening in Okinawa, Japan	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	SCC-CQ1-6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1 つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ. 非ランダム化比較試験による Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ IV ）	
	Pubmed ID	10215187	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Dermatol Sci	
	雑誌 ID		
	巻	19	
	号		
	ページ	161-165	
	ISSN ナンバー	0923-1811	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 1 ）	
	発行年月		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Nagano, T.	Department of Dermatology, Kobe University School of Medicine, Japan.
	その他著者 1	Ueda, M.	
	その他著者 2	Suzuki, T.	
	その他著者 3	Naruse, K.	
	その他著者 4	Nakamura, T.	
	その他著者 5	Taguchi, M	
	その他著者 6	Araki, K.	
	その他著者 7	Nakagawa, K.	
	その他著者 8	Nagai, H.	
	その他著者 9	Hayashi, K.	
	その他著者 10	Watanabe, S. Ichihashi, M.	
一次研究の 8 項目	目的	沖縄家島、兵庫県加西市における日光角化症の年間有病数を調べ、両者を比較する。	
	研究デザイン	コホート研究	
	セッティング	沖縄家島、兵庫県加西市での一般がん検診場	
	対象者	沖縄家島、兵庫県加西市での一般がん検診者	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 1 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 15 ）	
	介入（要因曝露）	沖縄家島、兵庫県加西市の緯度の違い	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	皮膚がん有病率	1. 主 要　2. 副 次　3. そ の 他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	1993-1996 までの 4 年間調査を行い、兵庫県のデータと比較した。年間有病数は、人口 10 万人当たり、1159.4（1993），572.8（1994）,1014.3（1995）,988.9（1996）で、兵庫県加西市と比較した年齢調整後の年間有病数の OR は、2.79（1993），1.38（1994）,2.45（1995）,2.39（1996）であった。	
	結論	緯度の低い方が日光角化症の発生が多い。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅳ　） 日本人に関する数少ない緯度と SCC の有病数の関係を調べた貴重なデータである。ただし、比較した集団における生活習慣、職業、スキンタイプなどの差が調整されていない点が問題としてのこる。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚がん	
	タイプ	医学情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	統計調査よりみた紫外線と皮膚がん	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	SCC-CQ1-7	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ. 非ランダム化比較試験による Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Biotherapy	
	雑誌 ID		
	巻	１９	
	号	5	
	ページ	411-416	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.看学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　1　）	
	発行年月	2005	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	石原和之	皮膚がん予後統計調査研究所
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		
一次研究の８項目	目的	皮膚がんの地域別、解剖学的部位別発生率	
	研究デザイン	コホート研究	
	セッティング	全国約１００施設	
	対象者	１９８７－２００１年まで集積した皮膚がん患者21652例の解析。SCCについては1987-1994の1082例	

	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（　1　）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（　3　）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（　22　）	
	介入（要因曝露）		
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	地域別皮膚がん発生数	1.主要 2.副次 3.その他（1　）
	2	年齢別皮膚がん発生数	1.主要 2.副次 3.その他（　1　）
	3	職業別皮膚がん発生数	1.主要 2.副次 3.その他（　1　）
	4	癌種別好発部位	1.主要 2.副次 3.その他（　1　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	頭、顔、耳口唇、首に52.2%、手指も加えると63%が日光露出部に発生していた。地域では西日本に多い。年度別に発生数をみると全てのがん種において増加がみられる。職業では戸外労働者は全体の４２％を占めていた。	
	結論	紫外線由来の皮膚がんが増加している。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原　久	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅳ　） 日本人について全国レベルで最も多数例について解析したデータである。 上背部、下腿、足背なども露出部と思われるが、集計上の制約によるためか、結果では考慮されていない。これらを加えれば露出部における SCC 発生率はさらに高くなると思われる。	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚扁平上皮癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Multiprofessional guidelines for the management of the patient with primary cutaneous squamous cell carcinoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	SCC-CQ2-1、WEB-CQ2-1, SCC-CQ 3-2、SCC-CQ 11-6,	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ. 非ランダム化比較試験による Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅰ ）	
	Pubmed ID	11841362	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	146	
	号	1	
	ページ	18-25	
	ISSN ナンバー	0007-1226 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 3 ）	
	発行年月	2002	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Motley, R.	Department of Dermatology, University Hospital of Wales, Cardiff, UK.
	その他著者 1	Kersey, P.	同上
	その他著者 2	Lawrence, C.	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

レビュー研究の6項目	目的	EBMに基づいた皮膚原発SCCの診療ガイドラインを提供すること。
	データソース	Brodlandの論文など（切除マージン）
	研究の選択	記載なし
	データ抽出	記載なし
	主な結果	定義、疫学、診断方法、予後、転移に関与する因子（部位、露出部位、非露出部位、耳、口唇、放射線照射部位や熱傷部位にできた腫瘍、2ｃｍ以上のサイズ、4ｍｍ以上の厚さ、クラークレベルⅣ, 未分化、神経浸潤、宿主の免疫不全、再発病変で転移しやすい）、Mohs 法、切除マージン（高分化で2ｃｍ以下、境界が明瞭で悪い予後因子を持たない場合は4ｍｍ、悪い予後因子を持つ場合は6ｍｍを推奨している）、凍結療法、放射線療法、予防的リンパ節郭清、経過観察法についてレビューしている。
	結論	
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	梅林芳弘　宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅰ ） 進行期病変も対象に含めた皮膚 SCC の診療ガイドラインは少ないため、貴重な指針である。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚扁平上皮癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Pattern of regional metastases from cutaneous squamous cell carcinoma of the head and neck	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	SCC-CQ2-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ. 非ランダム化比較試験による Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	15944554	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Otolaryngol Head Neck Surg	
	雑誌 ID		
	巻	132	
	号	6	
	ページ	852-6	
	ISSN ナンバー	0194-5998 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（2　）	
	発行年月	2005	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Barzilai, G.	Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Carmel Medical Center, Haifa, Israel.
	その他著者 1	Greenberg, E.	同
	その他著者 2	Cohen-Kerem, R.	同
	その他著者 3	Doweck, I.	同
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の8項目	目的	頭頸部皮膚 SCC のリンパ節転移と予後との関係を調べる	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	Carmel　Medical Center	
	対象者	所属リンパ節転移を伴う頭頸部の皮膚 SCC 22 例の患者	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 15 ）	
	介入（要因曝露）	リンパ節と耳下腺への転移	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	局所コントロール	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	生存期間	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	臨床的なリンパ節転移は、耳下腺リンパ節 50%、頸部リンパ節 59%、組織学的転移は、耳下腺リンパ節 68%、頸部リンパ節 45.5%、潜在的な転移は、耳下腺リンパ節 36%、頸部リンパ節 20%、だった。耳下腺と頸部リンパ節の両者に転移があった場合の生存率は０％、耳下腺のみは 60%、頸部リンパ節のみは 100%だった。	
	結論	所属リンパ節転移を伴う頭頸部の皮膚 SCC では、その他の所属領域（耳下腺や頸部リンパ節）に潜在的な転移が高頻度にある。また、両者に転移がある場合は予後が悪い。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV　） 耳下腺およびその周囲リンパ節と頚部リンパ節は頭頚部皮膚 SCC が最初に転移する部位として重要である。臨床的には耳下腺領域あるいは頚部領域のどちらか一方のみにしか転移が無い場合でも、もう一方には潜在的な転移のある率が低くないので郭清の範囲について注意を喚起している論文である。画像検査についての言及はないが、リンパ節転移を検索する場合の範囲を決定する上で参考になる論文である。

形　式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚扁平上皮癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Diagnostic Imaging. In: Randal S. Weber, Michael J. Miller, Helmuth Goepfert. Williams & Wilkins, eds. Basal and squamous cell skin cancers of the head and neck.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	SCC-CQ2-3	
書誌情報	エビデンスの レベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅵ　）単行本	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名		
	雑誌 ID		
	巻		
	号		
	ページ	79-113	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	1996	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Mancuso AA	Department of Radiation Oncology, University of Florida College of Medicine, Gainesville, USA
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の6項目	目的	レビュー
	データソース	不明
	研究の選択	同上
	データ抽出	同上
	主な結果	特になし
	結論	皮膚 SCC の原発巣で、画像検査が必要な条件、MRI と CT の選択の仕方、頭頚部の各部位における画像検査所見についての注意点が述べられている。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅵ　） 個人の経験に基づいた記述が多くを占めるが、具体的かつ詳細な説明であり、有益なレビューである。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	扁平上皮癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Perineural spread of head and neck tumors: how accurate is MR imaging?	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （1）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	SCC-CQ2-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	9576658	
	医中誌 ID		
	雑誌名	AJNR Am J Neuroradiol.	
	雑誌 ID		
	巻	19	
	号	4	
	ページ	701-6	
	ISSN ナンバー	0195-6108 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1998	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Nemzek, W. R.	Department of Radiology, University of California Davis Medical Center,
	その他著者 1	Hecht, S.	同
	その他著者 2	Gandour-Edwards, R.	同
	その他著者 3	Donald, P.	同
	その他著者 4	McKennan, K.	同
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目	目的	頭頸部 SCC における神経浸潤の評価における MRI の精度を調べる	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	カリフォルニア大学、Davis Medical Center	
	対象者	対象：術後に組織学的に神経浸潤が確認された 19 例の頭頸部の腫瘍（SCC10 例, adenoid cystic carcinomas 4 例, poorly differentiated carcinoma1 例, one salivary duct carcinoma1 例, mucoepidermoid carcinoma1 例, chordoma1 例, meningioma1 例）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （14 ）	
	介入（要因曝露）	MRI 検査	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｺｰﾑ）	エンドポイント	区分
	1	神経浸潤の同定精度	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	組織学的所見と術前の造影 MRI 所見とを比較検討した。MRI では 95%の症例において神経浸潤の有無を同定することができたが、浸潤の広がりについついては 63%の症例しか正確に評価できなかった。	
	結論	MRI では神経への微小浸潤を見逃しやすいので、骨孔構造や MRI の造影パターンの慎重な分析が必要である。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅳ ） 神経浸潤の有無と範囲を同定するためのMRIの有効性と限界について調べた論文であり、貴重な資料である。

形　式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚扁平上皮癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prognostic factors for local recurrence, metastasis, and survival rates in squamous cell carcinoma of the skin, ear, and lip. Implications for treatment modality selection	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	SCC-CQ2-5、SCC-CQ 4-2、SCC-CQ 5-3、SCC-CQ 11-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅰ　）	
	Pubmed ID	1607418	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	26	
	号		
	ページ	976-90	
	ISSN ナンバー	0190-9622 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	1992	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Rowe, D. E.	University of Texas Health Science Center, San Antonio.
	その他著者 1	Carroll, R. J.	同
	その他著者 2	Day, C. L., Jr.	同
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

レビュー研究の６項目	目的	皮膚、耳、口唇の SCC の局所再発、転移、生存率に関係する因子を明らかにする。
	データソース	記載なし
	研究の選択	除外規準 20 例未満 初回治療と再治療例を混在させて再発・転移率を算出している報告 同一の症例群を用いて別の雑誌に再投稿してる報告 基底細胞癌を区別して扱っていない報告 治療法別の算出をしていない報告
	データ抽出	記載なし
	主な結果	外科切除、Mohs, 放射線、電気、凍結での治療後の局所再発、転移について書かれた 71 件の報告を集め、予後に関わる因子や治療法の優劣について解析した。 局所再発（経過観察が長くなると高くなった：7.6%→10.5%） electrodesiccation：1.3→3.7% 切除：5.7→8.1% 集学的治療：4.0→7.9% 耳原発例は再発率が高かった：16.1→18.7% 転移（経過観察が長いと転移率も高くなった） 目に当たる部位（2.3%→5.2%） 口唇（7.2%→13.7%） 創部（26.2%→37.9%） 局所再発・転移のリスク 腫瘍径 2 cm 以上、Clark レベル Ⅳ～Ⅴ、低分化、耳や口唇原発、目に当たらない場所の腫瘍、既治療例、周囲神経浸潤、免疫抑制 治療法別局所再発率 手術：8.1%、放射線療法：10%、手術＋放射線療法：7.9% Mohs 手術：3.1% 転移を有する症例の生存率 手術＋放射線療法の成績が良かった
	結論	経過観察が長くなると再発率は高くなる。 再発の危険因子は、腫瘍径 2 cm 以上、Clark レベル Ⅳ～Ⅴ、低分化、耳や口唇原発、目に当たらない場所の腫瘍、既治療例、周囲神経浸潤、免疫抑制だった。 再発後には転移率が高くなるので、Mohs 手術を行うべきだ。また、再発の危険性が高い例や転移例では集学的治療が良いかもしれない。
	備考	

レビューワーコメント	レビューワー氏名	山崎直也　宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅰ　） 多数の報告例を集約して検討した報告であり、有棘細胞癌の予後因子を知る資料として価値がある。 Mohs micrographic surgery については、欧米でよく使われ、治療成績も良好であるが、一連の操作に費やす時間や人手を考えるとわが国の医療の中で普及していくのは難しいと思われる。 厳密にはシステマティック・レビューではないが、詳細に検討しておりそれに準ずるものと評価した。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚扁平上皮癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Cutaneous squamous cell carcinoma treated with Mohs micrographic surgery in Australia I. Experience over 10 years.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	SCC-CQ2-6, SCC-CQ 4-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ）	
	Pubmed ID	16021121	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol.	
	雑誌 ID		
	巻	53	
	号	2	
	ページ	253-60	
	ISSN ナンバー	1097-6787 (Electronic)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2005	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Leibovitch I,	Oculoplastic and Orbital Division, Department of Ophthalmology and Visual Sciences, Royal Adelaide Hospital, University of Adelaide, Adelaide, Australia.
	その他著者 1	Huilgol SC,	同上
	その他著者 2	Selva D,	同上
	その他著者 3	Hill D,	同上
	その他著者 4	Richards S,	同上
	その他著者 5	Paver R.	同上
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	Mohs 後の再発と臨床所見との関係を調べる	
	研究デザイン	コホート研究（多施設共同）	
	セッティング	オーストラリア	
	対象者	1993-2002 に Mohs を受け The Australian Mohs surgery database に 1993 から 2002 に登録されていた症例（症例数 1263、61.1%が初回治療例、38.9%が再発例 96.5%が頭頸部原発 SCC）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 14 ）	
	介入（要因曝露）	患者特性、原発巣の特徴、初診までの期間、部位、腫瘍のサイズ、切除後の皮膚欠損のサイズ、再発かどうか、組織型	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	5 年再発率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	再発腫瘍は初発腫瘍より大きく（p<．0001）、術後欠損も大きく（p<．0001）、Mohs 術の追加切除回数が多く（p<．0001）、術前の臨床的マージンを超えた浸潤を伴った症例も多かった（ｐ＝0.02）。また、未分化、棘融解型（ｐ＝0.02）が多かった（未分化、棘融解型は大型で切除範囲が大きく（ｐ＜0.001）、臨床的なマージンを超えた浸潤も多かった（ｐ＜0.005）） Mohs 治療後の 5 年間の再発は全体で 3.9%で、初回群 2.6%、再発群 5.9%だった。転移症例はなかった。再発と関連する主な因子は、再発の前歴、術前の臨床的なマージンを超えた浸潤と Mohs の追加切除回数であった（腫瘍の存在部位、組織型、初診時のサイズ、術後欠損と 5 年再発率との関連は認められなかった）。	
	結論	この試験には高リスクの症例が多く含まれていた。しかし Mohs 法によって 5 年局所再発率が低かったことは、本法によるマージンコントロールの重要性を強調するものである。	

	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅳ　） 考案における、SCC の治療に関するレビューも良くまとまっている。SCC の治療に関する現時点における中心的なレビューの一つとしてよい。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚扁平上皮癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Perineural spread of cutaneous squamous and basal cell carcinoma: CT and MR detection and its impact on patient management and prognosis.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	SCC-CQ2-7, WEB-CQ2-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID	11240248	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int J Radiat Oncol Biol Phys	
	雑誌 ID		
	巻	49	
	号	4	
	ページ	1061-9	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	2001	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Williams, L. S.	Department of Radiology, University of Florida, Gainesville, FL 32610-0374, USA.
	その他著者 1	Mancuso, A. A.	同
	その他著者 2	Mendenhall, W. M.	同
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目	目的	CT、MRI による神経浸潤の術前診断と予後との関係を明らかにする	
	研究デザイン	コホート研究	
	セッティング	フロリダ大学	
	対象者	35 例の顔面、頭部 SCC あるいは BCC 患者（臨床的あるいは組織学的に神経浸潤が証明されている）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（　3　）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（　3　）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（　22　）	
	介入（要因曝露）	SCC 原発巣における神経浸潤の有無	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	5 年生存率	1.主要 2.副次 3.その他（　1　）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	主な結果	術前 CT、MRI による神経浸潤の診断の有無と予後との関係を調べた。全ての症例において広範囲切除か Mohs を行い、さらに術後放射線療法を併用している。35 例中 18 例が画像で神経浸潤を同定できた。術前の画像検査で神経浸潤有群：無群における 5 年後の局所再発率は 78%：35%、5 年生存率は 86%：50% (p = 0.048)であった。	
	結論	術前 CT、MRI による神経浸潤の発見は、予後不良のサインであり、術後補助療法の検討をすべきである。また、極小の浸潤に比べて大型の神経浸潤がある場合は予後が不良である。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅳ　） 貴重なデータを含んでいるが解析が十分ではなく、SCC と BCC を一緒にしている点も含め、全体に読みにくい（論文からデータを拾うと SCC は 29 例、BCC は 6 例である）。また、全ての症例に術後放射線療法を行っているにも関わらず予後に差があるということは、術後放射線療法の有効性に問題があることを示している可能性があり、著者らの結論に疑問を感じる。なお、異常感覚や痛みなどの自覚症状がある場合の画像検査による神経浸潤陽性率は 67%（SCC のみでは 70%：レビューワーの計算）、症状の無いものは 18%（SCC のみでは 18%：レビューワーの計算）であり、画像検査の選択を行う上で興味深いデータである（ただし、自覚症状の有無と予後との関連は統計学的に認められなかった）。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚がん	
	タイプ	医学情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Surgical margins for excision of primary cutaneous squamous cell carcinoma	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	SCCCQ3-1, WEB-CQ3-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	1430364	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	27	
	号		
	ページ	241-248	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Brodland DG	Mayo Clinic
	その他著者 1	Zitelli JA	Mayo Clinic
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目	目的	原発性皮膚扁平上皮癌の最適な切除マージンのガイドラインを作成する	
	研究デザイン	研究デザイン：コホート研究	
	セッティング	対象：原発性，浸潤性の SCC１１１例,１４１個	
	対象者		
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 2 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ ２２ ）	
	介入（要因曝露）		
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	腫瘍消失率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	マージン 4mm での腫瘍消失率は 96%, 6mm では 99%。腫瘍のサイズ別では，最大径 1cm 未満ではマージン 4mm で 100%，最大径 1 cm 以上２cm 未満ではマージン 4mm で 95%，6mm で 100%，最大径 2cm 以上ではマージン 4mm で 86%，6mm で 97%の消失率であった。組織学的分化度別に見ると，grade 1 ではマージン 4mm で 97%，6mm で 100%，grade2 ではマージン 4mm で 93%，6mm で 97%，grade3 以上ではマージン 4mm で 80%，6mm で 100%の消失率であっ も。部位別に見ると，ハイリスク領域（頭皮・耳・眼瞼・鼻・口唇）では，マージン 4mm で 91%，6mm で 98%，それ以外の領域ではマージン 4mm で 98%，6mm で 100%の消失率であった。皮下までの浸潤のあるなしで見ると，皮下浸潤のないものはマージン 4mm で 98%，6mm で 100%，皮下浸潤のあるものはマージン 4mm で 90%，6mm で 98%の消失率であった。大部分の SCC では 4mm の切除マージンが適切であった。しかし，２cm 以上のもの，grade2 以上の組織学的分化度，皮下への浸潤，高リスク領域に発生したものは，腫瘍の進展範囲が広い危険が高かった。	

	結論	以上の結果から，著者らは，SCC の切除マージンは最低限 4mm 必要である，ただし径 2cm 以上のもの，組織学的分化度が grade2 以上のもの，ハイリスク領域（頭部・耳・眼瞼・鼻・口唇）のもの，皮下への浸潤のあるものには 6mm のマージンが必要である，と結論づけている。ただし，以上は再発性の SCC には当てはまらない，とされている。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	梅林芳弘　山崎直也
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ） 各国のガイドラインで SCC の切除マージンを設定する際に援用されている唯一にして最も重要な論文である。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚扁平上皮癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Multiprofessional guidelines for the management of the patient with primary cutaneous squamous cell carcinoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	SCC-CQ2-1, SCC-CQ 3-2、SCC-CQ 11-6,	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅰ　）	
	Pubmed ID	11841362	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	146	
	号	1	
	ページ	18-25	
	ISSN ナンバー	0007-1226 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　3　）	
	発行年月	2002	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Motley, R.	Department of Dermatology, University Hospital of Wales, Cardiff, UK.
	その他著者 1	Kersey, P.	同上
	その他著者 2	Lawrence, C.	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の６項目	目的	EBMに基づいた皮膚原発SCCの診療ガイドラインを提供すること。
	データソース	Brodland の論文など（切除マージン）
	研究の選択	記載なし
	データ抽出	記載なし
	主な結果	定義、疫学、診断方法、予後、転移に関与する因子（部位、露出部位、非露出部位、耳、口唇、放射線照射部位や熱傷部位にできた腫瘍、２ｃｍ以上のサイズ、４ｍｍ以上の厚さ、クラークレベルⅣ、未分化、神経浸潤、宿主の免疫不全、再発病変で転移しやすい）、Mohs 法、切除マージン（高分化で２ｃｍ以下、境界が明瞭で悪い予後因子を持たない場合は４ｍｍ、悪い予後因子を持つ場合は６ｍｍを推奨している）、凍結療法、放射線療法、予防的リンパ節郭清、経過観察法についてレビューしている。
	結論	
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	梅林芳弘　宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅰ　） 進行期病変も対象に含めた皮膚 SCC の診療ガイドラインは少ないため、貴重な指針である。

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚がん	
	タイプ	医学情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Clinical practice guideline. Non-melanoma skin cancer: guideline for treatment and management in Australia. 6. Surgical treatment	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	SCCCQ3-3、SCCCQ 6-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （1）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	不明	
	雑誌 ID		
	巻		
	号		
	ページ	43-47	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	2002	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	The Australian cancer network management of non-melanoma skin cancer working party	
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の６項目	目的	特に記載なし
	データソース	切除マージンについては Brodland の論文など
	研究の選択	特に記載なし
	データ抽出	特に記載なし
	主な結果	有棘細胞癌の疫学、診断、治療、経過観察に関するガイドラインである（全てを表記できないため、関連文献として採用されている CQ に関連した部分のみの表記とする）。 切除マージン（CQ-3）：SCC においてこれまで推奨されて来た切除マージンは，2－10mm である。2cm 以下で分化の高い SCC の 95%は 4mm マージンが適切である。2cm 以上の SCC で同様の結果を得るためには，10mm まで範囲を広げる必要がある。非常に大きな腫瘍ではより大きな切除範囲が必要となる。局所再発のリスクを高くする因子としては，腫瘍の大きさのほかに，発生部位，組織学的分化度，深達度，組織亜型，神経浸潤，既治療の有無，患者の免疫抑制，発生母地などがある。 リンパ節転移の診断（CQ-6）：有棘細胞癌のリンパ節転移の頻度は低いが、転移した症例の予後は悪い。このため、臨床的に所属リンパ節転移を疑った場合は fine needle aspiration biopsy で確定診断をつけるべきである。
	結論	切除マージン：2cm 以下の SCC の大部分は，最低 4mm のマージンで切除すれば，良好な結果が得られる。 リンパ節転移：リンパ節転移を疑った場合は fine needle aspiration biopsy を行って確定診断をつけた後、転移があれば根治的リンパ節郭清を行う。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	梅林芳弘
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅰ　） システマティックレビューに準じたエビデンスレベルとした。 ただし，上記結論のエビデンスの質については評価していない。 有棘細胞癌に対するセンチネルリンパ節生検はその概念が新しいため、欧米の確立されたガイドラインにおいても推奨されていない。

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚がん	
	タイプ	医学情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Clinical practice guideline in oncology-v. 1 2006, basal cell and squamous cell skin cancers.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	SCCCQ3-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅰ ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑		
	雑誌 ID		
	巻		
	号		
	ページ	SCC-1-REF-6	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	2006	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	NCCN	
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の6項目	目的	特に記載なし
	データソース	Brodland の論文など
	研究の選択	特に記載なし
	データ抽出	特に記載なし
	主な結果	2cm 未満の境界明瞭な SCC は，4mm マージンで 95%が治癒切除となる。
	結論	マージンは，low risk 群では 4～6mm，high risk 群のうち L 領域では 1cm，それ以外のものは Mohs surgery か CCPDMA (complete circumferential peripheral and deep margin assessment with frozen or permanent section)を推奨し，特にマージンを定めていない。これらの推奨カテゴリは２A(臨床経験に基づくなどエビデンスレベルは低いが NCCN のコンセンサスであるもの)とされている。
	備考	low-risk とされる大きさは発生部位によって異なり，体幹・四肢（L 領域）では 2cm 未満であるが，頬・前額・頭皮・頸部（M 領域）では 1cm，顔面のマスクで被われる領域・陰部・手足（H 領域）では 6mm としている。その他，初発か再発か，免疫抑制の有無，放射線照射や慢性炎症が母地になっているか，増大速度，神経症状の有無，組織学的分化度や亜型[adenoid(acantholytic)，adenosquamous，desmoplastic がハイリスク]，深達度・腫瘍厚（Clark のレベルⅣ以上あるいは厚さ 4mm 以上がハイリスク），神経・血管浸潤の有無などが危険因子として挙げられている。
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	梅林芳弘
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅰ ） システマティックレビューに準じたエビデンスレベルとした。

形　式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	有棘細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	The meaning of surgical margins	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	SCC-CQ4-1, WEB-CQ4-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （Ⅵ ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Plast Reconstr Surg	
	雑誌 ID		
	巻	73	
	号	3	
	ページ	492-497	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1984	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Abide JM	Departments of Dermatology and Surgery, Division of Plastic and Reconstructive Surgery, at Emory University School of Medicine
	その他著者 1	Nahai F	
	その他著者 2	Bennett RG	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の6項目	目的	腫瘍を切除する際の切除マージンの認識の違いについて
	データソース	専門家の意見
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	病理学者 11 人と形成外科医 25 人が対象。病理医が腫瘍の側方断端を診断するための切り出しの仕方からすでに個人差があった。また、「腫瘍の浸潤は断端に近い」という報告をうけたときの外科医の理解にも個人差がある。腫瘍の違いによっても外科医の対応は異なっており、有棘細胞癌が断端近くに見られれば一般に追加切除を行うが基底細胞癌では行われなかった。また、病理医が切除断端フリーと報告した場合、それを外科自身も顕微鏡的に確認するかどうかにも意識の差がみられた。
	結論	腫瘍の切り出し方や、断端の評価、表現の仕方にはルールが必要で、外科医と病理医の間の意思の疎通を密にすることは重要である。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	山崎直也
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅵ ） Mohs microsurgery と通常の切除では断端の形状も病理学的検索の方法も異なっていることを指摘しているが、それ以前に、病理医の中でも、また外科医の中でも、標本の取り扱いや言葉の使い方の統一がとれていないというような根本的な問題を取り上げていることは興味深い。ただ、あまりこれにとらわれると現場は混乱する

形　式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚扁平上皮癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prognostic factors for local recurrence, metastasis, and survival rates in squamous cell carcinoma of the skin, ear, and lip. Implications for treatment modality selection	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	SCC-CQ2-5、WEB-CQ2-6, SCC-CQ 4-2、SCC-CQ 5-3、SCC-CQ 11-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ. 非ランダム化比較試験による Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅰ　）	
	Pubmed ID	1607418	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	26	
	号		
	ページ	976-90	
	ISSN ナンバー	0190-9622 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（　2　）	
	発行年月	1992	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Rowe, D. E.	University of Texas Health Science Center, San Antonio.
	その他著者 1	Carroll, R. J.	同
	その他著者 2	Day, C. L., Jr.	同
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の6項目	目的	皮膚、耳、口唇のSCCの局所再発、転移、生存率に関係する因子を明らかにする。
	データソース	記載なし
	研究の選択	除外規準 20例未満 初回治療と再治療例を混在させて再発・転移率を算出している報告 同一の症例群を用いて別の雑誌に再投稿してる報告 基底細胞癌を区別して扱っていない報告 治療法別の算出をしていない報告
	データ抽出	記載なし
	主な結果	外科切除、Mohs, 放射線、電気、凍結での治療後の局所再発、転移について書かれた71件の報告を集め、予後に関わる因子や治療法の優劣について解析した。 局所再発（経過観察が長くなると高くなった：7.6%→10.5%） electrodesiccation：1.3→3.7% 切除：5.7→8.1% 集学的治療：4.0→7.9% 耳原発例は再発率が高かった：16.1→18.7% 転移（経過観察が長いと転移率も高くなった） 日に当たる部位（2.3%→5.2%） 口唇（7.2%→13.7%） 創部（26.2%→37.9%） 局所再発・転移のリスク 腫瘍径2 cm以上、Clark レベルⅣ～Ⅴ、低分化、耳や口唇原発、日に当たらない場所の腫瘍、既治療例、周囲神経浸潤、免疫抑制 治療法別局所再発率 手術：8.1%、放射線療法：10%、手術＋放射線療法：7.9% Mohs 手術：3.1% 転移を有する症例の生存率 手術＋放射線療法の成績が良かった
	結論	経過観察が長くなると再発率は高くなる。 再発の危険因子は、腫瘍径2 cm以上、Clark レベルⅣ～Ⅴ、低分化、耳や口唇原発、日に当たらない場所の腫瘍、既治療例、周囲神経浸潤、免疫抑制だった。 再発後には転移率が高くなるので、Mohs 手術を行うべきだ。また、再発の危険性が高い例や転移例では集学的治療が良いかもしれない。
	備考	

レビューワーコメント	レビューワー氏名	山崎直也　宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅰ　） 多数の報告例を集約して検討した報告であり、有棘細胞癌の予後因子を知る資料として価値がある。 Mohs micrographic surgery については、欧米でよく使われ、治療成績も良好であるが、一連の操作に費やす時間や人手を考えるとわが国の医療の中で普及していくのは難しいと思われる。 厳密にはシステマティック・レビューではないが、詳細に検討しておりそれに準ずるものと評価した。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚扁平上皮癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Cutaneous squamous cell carcinoma treated with Mohs micrographic surgery in Australia I. Experience over 10 years.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	SCC-CQ2-6、WEB-CQ2-4, SCC-CQ 4-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ）	
	Pubmed ID	16021121	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol.	
	雑誌 ID		
	巻	53	
	号	2	
	ページ	253-60	
	ISSN ナンバー	1097-6787 (Electronic)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	2005	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Leibovitch I,	Oculoplastic and Orbital Division, Department of Ophthalmology and Visual Sciences, Royal Adelaide Hospital, University of Adelaide, Adelaide, Australia.
	その他著者 1	Huilgol SC,	同上
	その他著者 2	Selva D,	同上
	その他著者 3	Hill D,	同上
	その他著者 4	Richards S,	同上
	その他著者 5	Paver R.	同上
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	Mohs 後の再発と臨床所見との関係を調べる	
	研究デザイン	コホート研究（多施設共同）	
	セッティング	オーストラリア	
	対象者	1993-2002 に Mohs を受け The Australian Mohs surgery database に 1993 から 2002 に登録されていた症例（症例数 1263、61.1%が初回治療例、38.9%が再発例 96.5%が頭頸部原発 SCC）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 14 ）	
	介入（要因曝露）	患者特性、原発巣の特徴、初診までの期間、部位、腫瘍のサイズ、切除後の皮膚欠損のサイズ、再発かどうか、組織型	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	5 年再発率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	再発腫瘍は初発腫瘍より大きく（p<．0001）、術後欠損も大きく（p<．0001）、Mohs 術の追加切除回数が多く（p<．0001）、術前の臨床的マージンを超えた浸潤を伴った症例も多かった（ｐ＝0.02）。また、未分化、棘融解型（ｐ＝0.02）が多かった（未分化、棘融解型は大型で切除範囲が大きく（ｐ＜0.001）、臨床的なマージンを超えた浸潤も多かった（ｐ＜0.005）） Mohs 治療後の 5 年間の再発は全体で 3.9%で、初回群 2.6%、再発群 5.9%だった。転移症例はなかった。再発と関連する主な因子は、再発の前歴、術前の臨床的なマージンを超えた浸潤と Mohs の追加切除回数であった（腫瘍の存在部位、組織型、初診時のサイズ、術後欠損と 5 年再発率との関連は認められなかった）。	
	結論	この試験には高リスクの症例が多く含まれていた。しかし Mohs 法によって 5 年局所再発率が低かったことは、本法によるマージンコントロールの重要性を強調するものである。	

	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原　久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅳ　） 考察における、SCC の治療に関するレビューも良くまとまっている。SCC の治療に関する現時点における中心的なレビューの一つとしてよい。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	有棘細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Advanced cutaneous squamous cell carcinoma of the trunk and extremity: Analysis of prognostic factors.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	SCCCQ5-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	64	
	号	3	
	ページ	212-217	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1997	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	North Jr JH	Division of Surgical Oncology,Roswell Park Cancer Institute,USA
	その他著者 1	Spellman JE	
	その他著者 2	Driscoll D	
	その他著者 3	Velez A	
	その他著者 4	Kraybill WG	
	その他著者 5	Petrelli NJ	
	その他著者 6		
	その他著者 7		

一次研究の 8 項目	目的	体幹・四肢の有棘細胞癌の臨床、病理学的予後因子を明らかにする	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および関励対照研究	
	セッティング	1 施設	
	対象者	四肢または体幹原発の有棘細胞癌の局所進行例と転移例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 2 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（　）	
	介入（要因曝露）	リンパ節郭清	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	生存	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	40 症例を対象とした retrospective study. 観察期間の中央値は 24 ヶ月 単変量解析において手術術式の違いによって予後に有意の差が認められた(p=0.009)。リンパ節郭清については 15 例に対して行われた。鼠径郭清 9 例、腋窩郭清 5 例、頚部郭清 1 例、根治的リンパ節郭清 13 例、予防郭清 2 例であった。そのほかに、切断術を行った際、切除範囲内に所属リンパ節が含まれ、結果的にリンパ節郭清を行ったとみなされる症例が 5 例あり、リンパ節郭清は合計 20 例、そのうち 16 例が根治郭清、4 例が予防郭清であった。ただし、この両者については統計学的解析はなされていない。	
	結論	予防的リンパ節郭清の有用性は不確定なままである。	

	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山崎直也
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） 体幹と四肢の有棘細胞癌に限定された論文である。症例数が少ない中で予防的リンパ節郭清を行った例はさらに限られており、科学的な根拠に基づいて予防的リンパ節郭清の意義を論じることは困難である。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	Nonmelanoma skin cancer	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Epidemiologic investigation of nonmelanoma skin cancer mortality:the Rhode Island Follow-Back Study.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（　1　）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	SCCCQ5-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （　Ⅳ　）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Invest Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	102	
	号	6	
	ページ	6S-9S	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（　1　）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	1994	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Weinstock MA	Dermatoepidemiology Unit, V.A.Medical Center
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	Nonmelanoma skin cancer の死亡率の大きさや特徴を明らかするための Rhode Island での follow-back study	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	多施設	
	対象者	1969 年から 1988 年に The Rhode Island Follow-Back Study 参加した米国人 nonmelanoma skin cancer 症例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（　2　）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（　3　）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（　22　）	
	介入（要因曝露）	nonmelanoma skin cancer	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	真の死亡率	1.主要 2.副次 3.その他（　1　）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　　）
	主な結果	米国における nonmelanoma skin cancer の予後は非常に良いはずである。ただ、squamous cell carcinoma として登録されているものの中には、喉頭癌、咽頭癌、口腔癌などの頭頸部癌が誤って含まれている。むしろ squamous cell carcinoma の死亡例として登録されているものの 83%が頭頸部領域からの混入であることも明らかにされている。このような部分に修正を加えると 1987-1988 年における nonmelanoma skin cancer の死亡率は白人男性で 3.5%程度、白人女性でおよそ 1.7%,黒人男性と黒人女性はいずれも 1.5%未満となる。Nonmelanoma skin cancer の死亡率は最近 20 年間は低下したが、高齢化社会が到来したこともあって、死亡者の絶対数は増加している。また、その中では耳介に発生した有棘細胞癌のリスクが高かった。	

	結論	米国における nonmelanoma skin cancer の予後は非常に良いがその中では有棘細胞癌は予後は悪いほうである。また、このような結論を導きだすための登録システムをより正確にデータ集積できるよう改良していく必要もある。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山崎直也
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（　Ⅳ　） 米国において nonmelanoma skin cancer は非常に頻度の高い疾患であり、日常的にみかけることができる腫瘍であるところは、疫学的に日本における現状と異なっており、注意が必要である。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	Nonmelanoma skin cancer	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Skin cancer as a course of death in Denmark.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	SCCCQ5-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	125	
	号	6	
	ページ	580-582	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1992	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Osterlind A,	Danish Cancer Registry, Institute of Cancer Epidemiology, Copenhagen
	その他著者 1	Hjalgrim H,	
	その他著者 2	Kulinsky B	
	その他著者 3	Frentz G	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		
一次研究の８項目	目的	デンマークにおける皮膚悪性腫瘍の発生と死亡についての疫学調査すること	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	全国調査	
	対象者	ﾃﾞﾝﾏｰｸ国民	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 2 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	Nonmelanoma skin cancer	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	症例数	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	死亡率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	デンマークには、癌の全国的登録制がある。 1984 年には非黒色腫皮膚癌の新患 2984 例が登録された。 死亡診断書の評価と確認によって、非黒色腫皮膚癌に起因する真の死亡者数は 18 人であった。 そのうちわけは有棘細胞癌 15 名と基底細胞癌 3 名であった。 推定致死率は、有棘細胞癌 4.3%と基底細胞癌 0.12%であった。	
	結論	デンマークにおいて有棘細胞癌の予後は良い	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山崎直也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） 正確な疫学調査として評価してよいと考える。	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	有棘細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prognostic factors for local recurrence , metastasis, and survival rates in squamous cell carcinoma of the skin, ear, and lip.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	SCCCQ5-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	26	
	号	6	
	ページ	976-990	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1992	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Rowe DE	The University of Texas Health Science Center at San Antonio ,USA
	その他著者 1	Caroll RJ	Texas A&M University, College Station, USA
	その他著者 2	Day CL Jr	The University of California at Los Angeles, USA
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
一次研究の８項目	目的	有棘細胞癌の治療成績	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	多施設	
	対象者	1940 年以来の皮膚と口唇原発の有棘細胞癌、最大で 12,536 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	Mohs micrographic surgery	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	局所再発率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	転移率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	皮膚原発有棘細胞癌で原発巣の治療方法別の治療後 5 年以内に局所再発率は、cryosurgery 3.2%, curettage and electrodesiccation 1.3%, surgical excision 5.7%, radiation therapy 6.7%であり、これらを non-Mohs modalities としてまとめると、局所再発率は 4.0%であった。 Mohs micrographic surgery については 5 年以上の長期観察例でも 3.1%と良好であった。 また、日光曝露部位に発生した皮膚の有棘細胞癌が 5 年以内に転移する率は 2.3%であった。	
	結論	皮膚原発有棘細胞癌は、早期に治療すれば一般に予後の良好な腫瘍である。ただし、発生部位において口唇や耳介に原発するものは再発転移のリスクが高いため注意を要する。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	山崎直也
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV　） 欧米においては皮膚原発有棘細胞癌はありふれた腫瘍であり、予後も良好であるため、ハイリスク群に対する予防的リンパ節郭清についての議論は起こりにくい。また、原発巣の治療法としてわが国で行われている通常の外科手術も治療の選択肢の一部にすぎず、有棘細胞癌の治療に対する認識に差のあることを感じる。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	本邦における皮膚悪性腫瘍の統計ならびに予後因子の検討：特に悪性黒色腫について	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	SCCCQ5-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（IV）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Skin Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	20	
	号	3	
	ページ	234-248	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 1 ）	
	発行年月	2005	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	石原和之	皮膚がん予後統計調査研究所
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		
一次研究の 8 項目	目的	日本における皮膚悪性腫瘍の疫学調査	
	研究デザイン	コホート研究	
	セッティング	多施設共同	

	対象者	1987-1994 年までの登録有棘細胞癌症例 1082 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 1 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）		
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶｳﾝﾄ）	エンドポイント	区分
	1	生存率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	90 ヶ月追跡の累積生存率は男性 73%、女性 87%であった。 発生母地としては日光角化症由来が最も多く、発生部位は露出部が 41.2%であった。病期分類別の 80 か月生存率は病期 I 92%, 病期 II 82.6%, 病期 III-1 59.3%, 病期 III-2 48%, 病期 IV は 60 か月生存率 10%であった。	
	結論	病期 III は III-1 において 60 か月生存率 80%であるものが 80 か月生存率は 59.3%に、また病期 III-2 で 80 か月生存率 48%であるところから進行期の症例は少ないものの予後不良と考えられる。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山崎直也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV　） 有棘細胞癌の転移は大部分が所属リンパ節から始まることや、病期 III の中でも病期 III-2、すなわち所属リンパ節転移のある症例の 80 か月生存率が 48%と 50%を下回っていることなどから、リンパ節転移の制御が予後の改善につながる可能性はあると思われる。	